

地域連携型教育支援

——呉市・子育て支援事業の取り組み——

山内 京子*

Regional Collaboration Type Educational Support Project : Efforts of Child Rearing Support Project with Kure City

Kyoko YAMAUCHI

要約：近年、子どもを取り巻く環境の変化は著しく、呉市においても少子化・超高齢化の進行はなかなかとまらない。男性を含めた働き方の見直し、地域における子育て支援、子育ての社会化は急務である。こうした中、呉市では、次世代育成をするための様々な施策が施行され始動している。

本学が呉市との連携のもと取り組んできた子育て支援事業は、呉市の子育て力を強化・向上するために、地域の子育てを支える保育士・幼稚園教諭のリカレント教育として位置付けられている。呉市の強い要請に応え、協同で開始した子育て支援事業の取り組みも来年度で10年目を迎える。これまでの取り組みを総括、今後の方向性を検討する。

Abstract :

Changes in the environment surrounding children are remarkable in recent years.

The progress of declining birthrate/super-aging in Kure City is remarkable.

Reviewing how to work including men, supporting child rearing in the community, and socializing child-rearing is an urgent task.

In Kure City, various measures to foster the next generation are being implemented and started.

The child rearing support project that the university has undertaken in cooperation with Kure City is positioned as recurrent education for nursery teachers and kindergarten teachers who support local child rearing in order to strengthen and improve the child rearing ability of Kure.

In response to the strong request of Kure City, the child-rearing support project that started jointly will also reach the tenth year in the next fiscal year.

We will summarize my efforts so far and consider future direction.

キーワード：子育て支援、地域連携、ひとづくり

1. はじめに

呉市は、瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西

部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島嶼部で構成される気候温和で自然環境に恵まれた都市である。明治22年海

*広島文化学園大学看護学部長・教授

軍鎮守府の開庁を機に本格的な市街地形成が進められ、昭和 18 年には人口 40 万人を超える日本一の海軍工廠を擁するまちに発展した。しかし昭和 50 年をピークに人口は減少、平成 22 年には約 24 万人となった。社人研によると、この減少傾向は今後も続き、平成 52 年には約 16 万人になる見通しを「呉市人口ビジョン」の中で指摘している。年少人口の減少は昭和 60 年の 57,534 人から平成 17 年には 31,413 人と 20 年間で 5 割弱減少している。

しかし一方、近年では、15 万人以上の都市の中で全国 1 高い高齢化率 32.6%（平成 27 年 1 月 1 日現在 住民基本台帳ベース）と高齢化の進展が指摘されている。

呉市は瀬戸内海に面していることからその気候は温和で、旧市街地は平坦地が少ない。海まで張り出した山塊によって市街地が分断され、沿岸部に重化学工業が立地、その背後の市街地を取り巻く急傾斜地に民家が密集するという特殊な土地利用構造がある。こうした土地環境の中、旧市街地（警固屋、宮原、中央）では大幅な人口減少がみられる一方、昭和、郷原の丘陵部では人口の増加がみられる等、近年の人口動態にも特色がみられる¹⁾。

急速な少子化の進行、家庭や地域を取り巻く環境の変化により国は平成 15 年に「少子化対策基本法」「次世代育成支援対策推進法」等を制定、呉市は県内でもいち早く子育て支援センターを立ち上げ、平成 16 年 6 月厚生労働省指定全国 49 自治体の「子育て支援総合推進モデル都市」として国の指定を受けた。

平成 17 年 3 月「すくすく・のびのび・子育てが楽しいまち くれ」を基本理念に「呉市次世代育成支援行動計画」前期計画を策定、地域社会全体で子育てを応援するための多くの子育て支援諸施策の取り組みを推進してきている。後期計画では、働き方の見直しによる「仕事と生活が調和す

る社会（ワーク・ライフ・バランス）」の実現、また地域協働の考えのもとに地域社会全体で子育てを応援するためのネットワークの強化、子どもの安全確保などに着目し、子育て支援諸施策をさらに充実させ、刻々と変化する社会状況に対応してきている。

呉市が平成 27 年度に市内に居住する 18 歳から 49 歳までの男女 3,000 人を対象に実施した結婚・出産・子育てに関するアンケート調査の結果によると、未婚者の 6 割は今後の結婚への希望を持っていた。また、結婚している人が欲しい子どもの数は、2.24 人であった。子育てをする上での困りごととしては、「出産や育児にお金がかかる」「仕事と子育ての両立が難しい」をあげた人が多い。

また、市内の高校 3 年生を対象に行った「高校生の定住志向に関するアンケート調査（平成 27 年度）」の結果は、進学を希望する高校生の 6 割が呉市を含む広島県内への進学を希望、就職を希望する高校生の 5 割が呉市内、4 割が呉市外の広島県内での就職を希望するなど、高校生の地元志向が窺える結果となっている。

呉市の家族類型別構成は「夫婦と子供」世帯が 30.8%、「夫婦のみ」世帯が 24.2%、「片親と子供」世帯が 9.4% と核家族と総称される家族類型が全体の 64.4% を占めており、夫婦と子供と親がともに暮らす「三世大家族」は 3.9% と非常に少ない。また、6 歳未満親族を含む世帯は「夫婦と子供」世帯が全体の 8 割を占め、これに「片親と子供」世帯が 11.1% と呉市における子育て環境では、その 9 割が親と子供のみの世帯で構成されるという特徴を持っている²⁾。

こうした呉市独特の子育て環境の中、呉市における子育て支援力向上を目指して、地域における子育てを支える保育士・幼稚園教諭のリカレント教育の必要が急務であることから、呉大学看護学部（現在の広島文化学園大学看護学部）が呉市子育て施設課の強い要請に応え、協同で開始した子

1) 呉市の人口の自然減の大きな要因は、「非婚化・晩婚化の進展」「若年女性の減少」とそれに起因する「出生数の減少」がある。こうした社会的背景が子育て・子育てしやすい環境づくりへの取り組みを強く後押ししている。

2) 西村雄郎、佐々木さつき他：子育て施設を核とする地域社会の子育てシステム構築に関する社会学的研究，平成 17 年度 呉地域オープンカレッジネットワーク会議地域活性化研究助成成果報告書，2006。

育て支援事業の取り組みも来年度で10年目を迎える。これまでの取り組みを総括、今後の方向性を検討する。

2. 子育て支援事業の概要

呉市は平成16年6月に厚生労働省指定の全国49自治体の「子育て総合推進モデル都市」に指定され、翌年から10年間の時限立法「次世代育成支援行動計画」を策定、前期計画（平成17年度～21年度）後期計画（平成22年度～26年度）の推進法に取り組んだ。この前期計画の5つの取り組み施策の基軸に環境づくりを掲げている。また、第4次呉市長期総合計画（平成23年度～32年度）総合戦略の位置づけ³⁾（図表1参照）の中でも重点プロジェクトの重点戦略に、人づくりが位置づけられており、その第1項に未来を担う人材育成があげられている。

少子化、核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化などにより、子育てや教育を取り巻く環境が変化していることから、地域社会全体で、子育てや教育に関する様々な取組を推進し、未来を担う子どもたちの育成を図ることをプロジェクトの推進方針としている。

母子保健や育児に関する様々な悩みに対応するための拠点となる子育て世代包括支援センター

（呉市版ネウボラ⁴⁾）の開設や、子育て家庭の応援を始め、小中一貫教育など特色ある呉の教育を更に充実させ、郷土を愛し、豊かな心を育み 健やかに育つ子育て環境整備を重点的に取り組む事業に位置づけている。

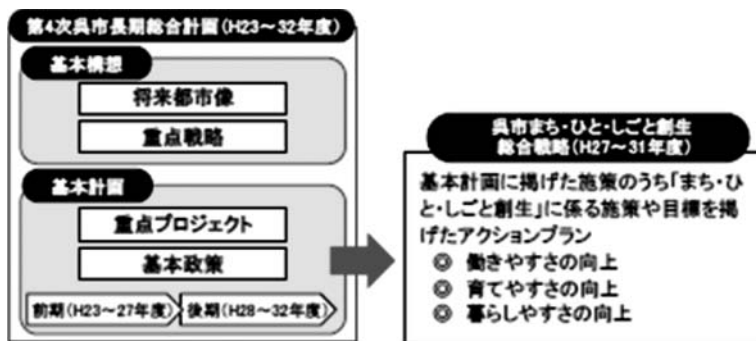
国は少子高齢化・人口減少に対応し、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定、人口の現状と将来の人口目標等の展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定した。

これを受け呉市は人口動向の現状や市民の希望を分析、今後目指すべき方向性と人口の将来展望を示す「呉市人口ビジョン」を策定している。この人口ビジョンは「呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する基礎となっており、国の長期ビジョンの意義・趣旨等を踏まえ、平成52年までが対象期間となっている。

第4次呉市長期総合計画の第2節で結婚・妊娠・出産・子育ての現状と課題として、次の3点があげられている。

(1) 核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化などにより、子育てに対する負担や不安感の増大、親の孤立化⁵⁾などが問題となっている。妊娠や出産、子育てについての不安や負担を軽減する

図表1 第4次呉市長期総合計画 呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略



- 3) 総合戦略は第4次呉市長期総合計画に掲げた施策のうちの5年間（平成27年度～平成31年度）を重点的に取り組む期間として位置づけ、リーディングプロジェクトとしてひとづくりに関する基本目標を掲げている。
- 4) 呉市子育て世代包括支援センター「えがお」を平成28年度からの重点戦略1 人づくりを支援するために開設
- 5) 親の孤立化：核家族化や地域との関わりが弱まる中、子育てに対する負担や不安がうまく伝えられずに、自分の殻に閉じこもってしまうこと

ため、妊娠期から子育て期に至るまでの切れ目のない支援を行っていく必要がある。

(2) 子どもを持つ親が、身近な場所で気軽に相談や交流を行うことができるとともに、安心して働くことができるような環境づくりに取り組んでいく必要がある。

(3) 離婚等により増加しているひとり親家庭に対する相談・支援や、子どもの心身の発達、人格の形成に重大な影響を与える児童虐待⁶⁾に関する相談など、多様な問題にきめ細かく対応できるよう、支援活動を充実していく必要がある。

この政策の基本方針は、次の3つから成る。
(1) 出会いの場の提供など結婚を支援するとともに、妊娠婦やその家族などを総合的に支援する「子育て世代包括支援センター」を整備し、妊娠期から子育てに至るまでの悩みなどを気軽に相談できる体制づくりを行うなど、妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援を推進する。

(2) 呉市子ども・子育て支援事業計画に基づき、地域における子育て支援や保育サービスを充実させるとともに、子育て支援のネットワークづくりを支援するなど、地域で子どもと子育てを支える環境づくりを推進する。

(3) 保健、福祉、医療などの関係機関との連携により、児童虐待の防止やひとり親家庭等の自立支援に向けた取り組みを強化するとともに、ひつような経済的支援を行うことにより、支援を必要とする子どもとその家族を支える環境づくりを推進する。

また、平成27年度からは「子ども・子育て支援新制度」に基づき「呉市子ども・子育て会議」がスタート、ひとりひとりの子どもが健やかに成長することができる社会の実現を目指し、創設されたもので、

1. 質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供
2. 保育の質的拡大・確保、教育・保育の質的改善

3. 地域の子ども・子育て支援の充実

の3つの目的を掲げている。中でも2. の保育の質的拡大と確保、教育・保育の質的改善を支えるために、幼稚園教諭・保育士等の人材確保と教育の保障を重視した取り組みとして、本学は平成20年度から呉市・子育て支援事業に関わってきている。

昨年度から始動している呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27～31年度）の中で、基本計画に掲げた施策のうち「まち・ひと・しごと創生」に係る施策や目標を掲げたアクションプランの3つのうちの一つに育てやすさの向上（ひとづくり）があり、子育て・子育てしやすい環境づくりがある。

まち・ひと・しごと創生の実現に向けて、多様な主体との連携方策を掲げており、その中に大学、医療機関、企業、金融機関との連携の推進が位置づけられている。

基本構想に掲げる将来都市像の実現に向け、本年度（平成28年度）から平成32年度までの5年間で取り組む「重点プロジェクト」の中の人づくり（地域の「つながり」や人々の心の「絆」を大切にすることを基軸に据え、「市民主体のまちづくり」を積極的に展開し、「元気な市民」を創出）を掲げており、平成32年度末における呉市の都市像として、協働による自主的で自立したまちを目指している。

具体化方策として保護者ニーズに対応した保育サービスの提供など、地域全体で子育てを支援する環境づくり推進をあげている。

その基本目標の育てやすさの向上（ひとづくり）の中で、呉市の人口の自然減の大きな要因は、「非婚化・晩婚化の進展」「若年女性の減少」とそれに起因する「出生数の減少」にあると指摘している。核家族化や働き方の多様化に伴う様々な保育・子育てニーズへの対応を充実させることにより、社会全体で子育て世代を応援し、安心して子育てすることができる環境を創出、女性の社会進出促進を目指している。

6) 児童虐待：保護者がその監護する児童に対して身体に外傷が生じるような暴行を加えたり、わいせつな行為を行ったり（行わせたり）、監護を著しく怠ったり（長時間の放置や正常な発達を妨げるような減食をさせる等）、心理的外傷を与えるような言動を行うこと

呉市においても核家族化や地域のつながりの希薄化等は進んでおり、地域において妊産婦やその家族を支える力が弱体化している。妊娠、出産及び子育てに係る不安や負担を抱えている妊産婦や家族への支援は切実な課題となっている。

こうした子育てを取り巻く環境下での課題に適切な対応をするために、呉市の子育て世代への包括的な支援体制組織として、子育て支援課、子育て施設課、すこやか子育て協会、すこやか子育て支援センター⁷⁾等が設置され機能している。

看護学部は呉市子育て施設課から、次の様な目的で子育て支援事業としての夏季研修会開催を依頼された。開始年度の目的（平成20年度）は、『呉市は、平成17年4月に「呉市次世代育成支援行動計画」を策定し、地域社会全体での子育て支援に取り組んでいる。しかしながら、子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化する中、幼稚園・保育所（園）に期待される役割が深化・拡大してきている現状にある。幼稚園・保育所（園）職員の資質向上のため、従来の研修とは異なり、専門資料や教材が整った呉大学に職員を派遣することにより、より専門性の高い知識を持った職員を養成する』であった。その後もこの目的に基づき、研修会は実施されてきている。本事業の最初の話合いは呉市宮原課長、山脇主幹、西村課長補佐、と呉大学看護学部長（現 広島文化学園大学副学長）佐々木秀美、山内京子（現 同大学看護学部長）の5名で行われ、どの様な研修内容が必要なのか、その目的やねらい等を確認しあうことから始まった（図表2参照）。その後、何度も話し合いを重ねながら、具体的なプログラム案の作成、日程の調整、受講生への連絡等々に着手した。

上記目的で開始した子育て支援事業としての研修会の実施期間は比較的大学教員が講義のための時間を確保しやすい夏季休業期間（8/1～8/12）で開始した（図表3参照）。

2週間の研修期間の第1週目は主に子育てに関する発達・心理関連の講義・演習を学部生と同じ

講義時間（1コマ90分）で1日4コマ開講、1週目の合計は20コマ、第2週目は家族・行政に関する講義に加えグループワーク・演習を中心に20コマ、合計2週間で40コマ（90×40＝3600分、60時間）のプログラムで開講した。

研修会の受講対象者は、呉市内保育所保育士（公立保育所・私立保育園）、呉市内幼稚園教員とした。第1回目の研修会講師は看護学部の心理・小児・精神・基礎・成人・母性看護学領域の教員11名（佐々木、山内、東中須、金子、山下、長沼、入江、岩本、大原、原、若林）と社会情報学部教員1名（磯田）の計12名で開始した。なお、呉市の保育行政に関する3コマは呉市の子育て支援課・施設課の協力を得て開講した。

研修会は夏季休業中の盛夏に実施されたが、欠席者は例年ほとんどなく、受講生たちの2週間（60時間）の研修を終えた達成感の強さが研修会終了後のアンケートからも伺える。

日頃、乳児・年少・年中・年長の子どもの健康・安全に留意しながら子どもの成長を手助けするため、日々いそがしく身体を動かしている受講生にとっては1コマ90分の講義（座学）に研修会開始後数日間は身体が慣れず苦労の様子が伺えたが、研修会も後半になると自分たちで課題を設定しての演習やグループワーク、その成果発表のプレゼンテーションに活き活きとした表情が見られるようになった（図表4参照）。研修会の演習・グループワークを通して、日頃はなかなか接点を持つことのない保育士・幼稚園教諭間での情報共有、課題解決に向けて、積極的な意見交換に和気藹々な雰囲気がどのグループでも見られた。

研修会の総まとめとしてのレポート課題は学びの集大成としてまとめられ、研修会終了後に大学に提出され、学内で回覧、講義・演習を担当した教員は翌年への振り返り、次年度への課題の明確化等、評価をする貴重な資料となっている。また、研修会最終日には学長から研修会修了証書の交付式があり、受講生は全員緊張の面持ちで厳粛な雰囲気のもと修了証書を手渡されている。研修

7) ファミリー・サポート・センター事業、相談事業実施地域子育て支援拠点事業（ひろば型）2ヶ所「くれくれ・ば」「ひろひろ・ば」開設・運営

会終了後の受講生は「女子大生とサヨナラの会」と称した、研修受講生と講義担当教員の交流の場を設定、食事をしながらの学内とはまた違った雰囲気の中で自由な意見交換にお互いの新たな一面を見ることができた。こうしたつながりは研修会終了後も有志による勉強会として継続している。

看護学部も本事業を依頼された当初は、これまでにないまったく初めての試みであり、手さぐり状態で始めたが、看護学部と呉市子育て施設課が協同で始めた研修会も来年度で10年目を迎える。次の段階への新たな取り組みを検討している。

3. 看護学部との連携事業の概要

1. 子育て支援研修事業

看護学部と呉市子育て施設課とのこれまでの取り組みの成果と今後の課題を明らかにするために、前半5年間の研修会受講生全員に対してアンケートを実施、本事業の中間評価を行った（平成20年度～24年度⁸⁾）。5年間の受講者総数104名（保育士・幼稚園教諭）を対象にアンケート調査を実施、回収は郵送法とした。配布数は85部、回収77部、回収率は90.6%であった。設置主体別の回収率は、公立保育所が38/38（100%）、私立保育園が19/23（82.6%）、幼稚園は20/24（83.3%）であった。

中間評価の概要

1) 受講年度の状況

回答者全体の受講年度に偏りはなく、設置主体別でみると公立・私立は例年ほぼ同じ様な状況の受講状況であるが、幼稚園は受講年度により偏りがみられた。

2) 受講メンバー間の交流

受講後のメンバー間の交流状況については、全体でみると「ある」「たまにある」を合わせて5割を超えていたが、保育所と幼稚園ではその傾向に大きな違いがみられ、幼稚園においては「まったくない」が半数をしめている。

3) 受講後の保育における視点の変化については60/77（77.9%）の回答が得られた。

研修会受講後に保育をするにあたっての視点の変化を感じている者が9割弱をしめていた。公立の約半数が保育の視点に変化が「ある」と答えており、私立・幼稚園に比して高い割合をしめていた。一方、幼稚園においては「ほとんどない」「まったくない」が2割をしめ、同じ受講内容の研修会を受けても3施設に違いが認められ、受講者側のレディネス状況が受講後の成果の違いに影響を与えていることが伺える。

主な変化の視点としては、「発達に関する学習内容をこれからの保育に活かしたい」「子どもの見方とらえ方に変化を感じた」「コラージュや絵画療法を取り入れたい」「アートへの意識の変化」がある。

4) 受講後、新たに保育所（園）・幼稚園で取り入れた内容については43/77（55.8%）の回答が得られた。

3施設で6割強が研修内容を積極的に日々の保育に取り入れていた。しかし、3施設間では、取り入れ方の姿勢に差がみられ、公立と私立で「ある」の回答者は約2倍の差があり、幼稚園では「ほとんどない」が7割と受講者側のニーズに違いがみられることが明らかになった。

具体的な内容としては、「絵画療法」「描く」「語ろう」「つぶやきや思いの傾聴」「絵の具遊び」「コラージュ」「場面記録」「保護者対応」「エンカウンター」「楽器演奏」「和太鼓」「無理に断乳しない」「保育室の環境整備」「事故発生対応マニュアル作成」「造形」「AEDの使い方」「うたの歌い方」「母乳育児」「声かけの仕方」「お互いを認め合う」「保護者への救急救命研修」「声の出し方」「学習障害の子どもへの援助法」等であった。

5) 今後、さらに受講したい講義内容については52/77（67.5%）の回答が得られた。

その内容は、「発達心理学」「人間関係論」「家族看護論」「乳児保育（アレルギー・離乳食・病気等）」「保護者対応」「ベビーマッサージ」「リトミック」「身体づくり」「障がい児保育」「カウンセリング」「コーチング」「発達障害」「気になる

8) 山内京子 他：地域連携型教育支援 呉市・子育て支援事業の取り組みに関する検討報告，看護学統合研究，15(2)，16-1, 2015.

子、障がいのある子への支援」「保護者対応」「音楽・楽器関連」「伝染病・感染症対応、アレルギー」「絵画表現」「子どもの病気」「楽器・合奏の指導方法」「直接保育に係らない広島文化学園大学看護学部でしか受講できない講義」等であった。

6) 今後の期待する方向性については51/77(66.2%)の回答が得られた。

その内容は、「心を育てる心育」「発達を見極めて生かせる保育」「専門性の高い内容」「今と同様の方向性で内容に変化を」「平成23年度の内容が良かった」「自分の意見を言える場」「公立と私立保育所の交流の場」「意見交換・情報交換の場」「現場で実践できる内容」「あらかじめ講義内容を紹介してもらっておき、選べる研修」「感情労働職として人間関係論ははずせない」「看護師さんとの情報交換」「研修期間が長いので私立だと参加が難しい」「研修期間の短縮」「他園との交流の継続」「保護者対応研修」「研修終了後も引き続きの情報交換ができる」「講義日程の調整(2週間は難しい)」「各園で順番で受講できるような日程調整を希望」「定期的な研修」「すぐに実践できるもの」「具体的な保育実践の紹介」「受講生と講義担当の先生との受講後の連携」「呉市で唯一の幼保合同研修なので、是非今後も継続して欲しい」等であった。

7) 要望・意見として、46/77(59.7%)の回答が得られた。「年齢順での受講と聞いているが受講経験者として、保育に返す義務を持って受講する必要がある」「公立・私立・幼稚園、横での情報交換が必要」「『ハチャメチャの会』が時間内にあれば参加者が増えるかも」「フォローアップセミナー」「資格取得につながるような研修であれば費用負担でも受講したい」「研修期間を1週間くらいに短縮してもらえると保育への支障が軽減できる」「より目的のはっきりしたプログラムもあっていいのでは」「受講時の気持ちが低下してきている」「とてもいい企画、研修なので2順めも企画して欲しい」「1期生だが、研修ステップ2があると嬉しい」「子どものため、子どもの立場に立つのは得意だが、保護者の立場になるとまだ寄りそえていない現状がある」「担当を持た

ずにフリーの年度に受講できれば集中できた。受講前後でクラスの雰囲気はかなり変化して困難を生じた」「講義の内容を選べれば良い」「受講者以外にも受講できるコマを開放して欲しい(心理・精神関係の講義等)」「職場全体で共通理解を深めることができありがたかった」「とても貴重な研修なので今後も是非続けて欲しい」「主任やベテランの方とも議論できたり、様々な意見が聞けてとても勉強になった」「10日間の研修期間は送り出す保育所側にもとても負担になるが、参加した側としてはとても意義深い研修」「夏休み中でも子どもたちは登所しており、他の先生方の負担が大きくなる」「他園の先生方のお話を聞くことができよかった」「日々の保育に新しい風や見方ができるようになった」「2週間のプログラムは長いので参加するのが難しい」「期間を短くするか2期に分けてもらえると参加しやすい」「学んだことは多くあったが、それを生かせていない気がする」「1週目をふまえての2週目の講義という感じがしたので、ついていけないことがあった」「2週目に参加してもわかりやすい講義内容だと嬉しく思う」「大学生に戻った気分で参加できた」「幼稚園教諭が10日間の連続参加は厳しいので、定期的に受けられるような研修会があればと思う」「研修会が終わると幼保の交流がなくなってしまうので、1年に1回でも子どもの現状や問題に思うことなどを話し合う交流の機会が持たれたらと思う」等であった。

平成25年度以降の取り組み

上記の中間評価を受けて、平成25年度からは、研修期間を短縮して6日間に変更した(図表5参照)。このスケジュール期間の短縮について、各年度実施後アンケート結果では、「とても良い」(71~83%)と前向きの評価となっている。

さらに講義内容については「非常に良い」(80~100%)、演習内容については「非常に良い」(46~67%)、「良かった」(33~54%)であった。

一方、講義時間については「ちょうど良い」(93%)、「物足りない」(77%)と満足度は開講年度によって異なる結果となった。

1) 印象深かった講義としては、「リトミック」

「見えていますか子どもの性が」「子育て法律相談」「人間関係論」「発達心理学」「家族看護論」で印象に残った演習は「コラージュ」「お母さんの健康支援（ヨガ）」「救急救命演習」「音楽とアート」「課題学習」であった。

なお、中間評価を受けて新たに「リトミック」「ベビーマッサージ」「保護者対応」「子育て法律相談」を開講している。

2) 次年度以降、希望する研修内容としては、「お母さんの健康支援と法律相談の時間数はもう少し増えても良いかと思います」「保育現場に直結するような講義も少しあっても良いかと思う」「課題学習の時間をもう少し早めに取り組みたら良かったと思う（もう少し準備する時間があれば良かった）。法律の事前アンケートをもっと早めにもらえればもっと聞きたいことがあった」「子どもの病気、伝染性の病気などの講義があったら良い。心理学はもっとあった方が良い」「お母さんの健康支援の時間をもっと長くして欲しかった。課題学習から発表までの時間が欲しい」「コラージュは研修中の間にあった方が気分的にリフレッシュできたと思う」「演習（身体を動かす）ものをもっと増やして欲しい」「アンガーマネジメント」「難しい保護者とうまくコミュニケーションをとる心構え、所謂クレームをつけてくる人ともうまくやっていきたい」「子育て支援で保育所、幼稚園以外の現場での話が聞きたい」「1週間ずっとは難しい状況もあるので、それぞれの講義を普段の研修でしてほしい」「発達心理学の分野で虐待など家庭環境に問題があった子の思春期・青年期がどのように成長していくのかを知りたい。そのために保育所でできること」等であった。

3) 全体の感想としては、「学びの場を与えて頂きありがとうございます。私は初回も参加させて頂き、今回2回目の受講となりました。とても良い勉強になりました。ありがとうございます」「充実した一週間でした。参加の機会を与えてくださりありがとうございます」「一週間あったという間でした。とても楽しく勉強できました。現場でしっかり活かしたいと思います」「充実した6日間でした。今回学んだことはしっかり

保育所に持ち帰り実勢に生かしていきたいです」「1週間ありがとうございました。始めはとても緊張していましたが、最終日にはこの研究が終わってしまうのが何だかさみしいと思いました。一つひとつ講義を受ける中、改めて考えさせられることや新たに学ぶこともたくさんあり、とても有意義な1週間となりました。ありがとうございます」「涼しい、いつもと違う環境の中で色々な方面から学ばせて頂きました。どの講義や演習の中でも必ず保育所の子どもや保護者の顔が浮かび、やはり自分は保育現場が好きなのだと再確認できました」「初めは緊張し喜んでの参加ではなかったのですが、自分を見つめ直したり、保育を見つめ直したり、新しい事を知ることができました。グループでまとめたり発表したりする（人前で意見を言う）ことが苦手で嫌でしたが、今はすべて終え、充実感でいっぱいです。6日間ありがとうございます」「現場から少しはなれて色々見つめ直すとても良い時間になりました」「何年ぶりに大学生に戻り、講義を受けさせて頂きました。今ならまじめに勉学に励むことができます。今回こういう機会を与えて頂きありがとうございました」「多方面にわたり勉強させてもらいありがとうございます。リフレッシュする時間もあり、とても良かったです」「6日間勉強させて頂きありがとうございます。保育所の子どもたちの顔が浮かびあがる講義もありました。早く子どもたちに会いたいです。グループ研究はなかなか進まずあせっていましたが、皆の力で発表できたことを嬉しく思います」「6日間も仕事から離れることがないので現場は大変だろうなと思いながら、研修に参加させて頂きとても有難いと感じた。今回の研修で振り返ってみることも色々考えていく時間もあり、とても勉強になりました」「保育所としては毎年参加させて頂いているようで、とても良い研修だったと受講された先生方からは話を聞いていました。私はこの4月から異動でブランクのある保育所へ戻ってきました。その間、保育現場も考え方も大幅に変わっていて浦島太郎のような状態で、自分に自信がなくなっていた時期もありました。この研修を受講させて頂き、私が思っていることは現実としてありながら

も、さほど考えなくても視野を広げてみれば大切なことは今も昔も変わらない、本質的に大変なことに気づきなさいよと言ってもらった研修だったように思い、今、この時期に受講できて感謝しています。本当にありがとうございました」「毎回とても良い研修でした。とても参考になるものばかりで良かったです。最後の発表会では少し緊張してしまいましたが、グループの皆さんと協力して行うのはとても楽しかったです。このせっかくの交流を大切に日常の保育に役立てていけたらと思います」「1日の講義の4コマは少しキツイ日もありましたが、これだけの研修を受けさせて頂くことはやはり1日4コマは必要なのかと感じました。課題学習は悩んだけれどグループで協力しあって楽しさも味わえて良かったです」「何年ぶりの学生気分を味わえ、楽しい講義、多くの仲間に出会え、有意義な時を過ごすことができありがとうございました。正直なところ、長時間座っての受講はしんどかったです」が寄せられました。

2. 潜在保育士就職支援セミナー

さらに平成26年度から新たに、保育士の資格を持ちながら現在就業していない人たちを対象に、就業に向けての支援事業として潜在保育士就職支援セミナーを開始した(図表6参照)。

これまでの受講生は、平成26年度(15名)平成27年度(17名)平成28年度(14名)計46名と託児(1歳～3歳までの託児)7名である。なお、託児ボランティアとして、セミナー期間中全日、学部生5名が小児看護学教員と共に託児支援を行った。

潜在保育士就職支援セミナー終了後のアンケート結果は、スケジュール内容に対して、「とても良い」(53%)と回答、講義内容についても「非常に良かった」(53%)、演習に対する評価も「非常に良かった」(61%)と満足度の高いものであった。また、講義の日程は見学実習も含めての3日間と短めであるため「物足りない」(84%)との回答であった。

1) 印象深かった講義は「発達心理学」で、「現在子育て中と言うこともあり、自分と重ねてみた

りできて本当に印象に残った」「手遊びなども現場を離れて数年懐かしかった、身体を動かして楽しかったです」「どの講義も保育の今がよくわかり、妖怪ウォッチ楽しかったし、虫の物語の話も素敵で今こういうことを現場でされているのだと勉強になりました」「自分が学生時代に教えてもらった内容と時代と共に変わったこと、新たに加わったことが含まれていておもしろかった」「私立の保育園を見学できて良かった。公立の保育園は幼稚園の様に園解放している所ばかりではないので」「心理学の講義が色んな年代にわたっての実話を踏まえながら進めてくださったので、とてもわかりやすく印象に残りました。手遊びや体操など、実際に一緒にやってみてとても楽しかった」等であった。

2) 今後の希望としては「今年度の様な型で良いと思う。ただ、欲を言えば年に数回あれば良い。現場ですぐ使える遊びや製作など実技面の時間が受けれることが有難かった」「求人情報をさらに詳しく書いてあればありがたいかなと思います。例えば、社員登用制度があるかないか、交通費、処遇面等々についてあればと思います」「もっと知名度を上げれば良いと思う。知らない人が多いと思う」「1週間に1日の方が参加しやすい」「発達心理学の先生の講義を受けたい。もっと色んな事例に触れてみたいので、幼児期だけでなくその子の大きくなった時までの生育歴がわかるので」等が寄せられた。

3) 全体的な感想として、「この度は貴重な経験をさせて頂きありがとうございました(親子共々に)。しばらく保育の現場から離れていましたが、このセミナーを機に条件が整えば、やってみたいという気持ちになりました」「20年ぶりの講義に学生に戻った気分、とても背筋が伸びた2日間でした。現役保育士さんが受けているセミナー等一般向けに開かれているものがあれば参加したいなと思いました」「今回こういう機会を頂き本当にありがたかったです。今は異なる仕事をしていますが、必ず保育士の仕事がしたいと思いました。ただ、今現在、子育て真最中なので、復帰できるのか葛藤しています。独身の間は働いているお母さん方を励ましたりしていましたが、いざ自

分は両立でいっているのか…改めて保育士の仕事の大変さを痛感しています。貴重な機会を頂きありがとうございます」「保育士として独身の時に働いていましたが、何十年も前なので働きたいと思っても現場からかなり遠ざかっているので無理だと思っていました。ニュースで広島市や他県で支援セミナーが開催されているのを見て、呉市でもあればと思っていました。今回参加できてとても良かったです。また保育士として頑張りたいと思いました。ありがとうございました」「託児があってとても良かった。学生さんと触れ合えて新鮮だったし、初心に戻れた」「1日5コマか、1コマ60～90分位でも良かったです」「10年位のブランクがある保育士の仕事にまた興味が持て、働けるかもという気持ちが生まれてきた。子育てしていて、子どもを預けられることがとても重要なことだと思うので、そういう人の助けになれるように、また仕事を始めてみようかなと思っています。ありがとうございました」「就職しても研修できたら嬉しく思います。特に子どもの病気や処置の仕方を教えて頂ければ嬉しく思います。大学の図書館が利用できれば嬉しいです」「保育士として働いていたのが13年前なので、これから再就職するのが不安でしたが、講義や演習を受けて、楽しい、またやってみたいという気持ちが強くなりました」等であった。

4. 考察及び今後の課題

平成20年度から始めた本事業も来年度で10年目となる。中間評価を経て、幾つかの見直しと新たな取り組みを行ってきた。従来、子育て支援は、共働き世帯に対する仕事と子育ての両立支援として、保育施策を中心に推進されてきたという歴史的経緯がある。

そうした中、近年注目されているネウボラ⁹⁾という取り組みがある。平成27年度、国の施策として全国150か所にネウボラ事業が推進され、地域における途切れのない妊娠・出産・子育て支援事業が報告されるようになった。呉市版ネウボラは平成28年10月3日に「えがお」としてスタートしている。

こうした中、全国に先駆けて開始した名張版ネウボラ事業は、行政主体の支援事業ではない。近年の児童虐待、DV、貧困、特定妊婦の増加や孤立した子育て等の問題に対しては、行政と医療の連携が不可欠と指摘する。地域母子保健の向上には、地域医療と行政との連携が重要となるが、実際に十分な連携がとられている地域は極めて少ないため、医療関係者の理解と個人情報扱いに十分配慮した有機的な連携関係の構築の重要性を指摘している¹⁰⁾。また、母子・子育て支援事業は行政主体で実施されているが、医療関係者の理解は乏しく、医療現場との連携は不十分と指摘する。また、近年問題になっている母子環境を取り巻く子育てに関する問題に対して、行政と医療との連携がスムーズにいかない背景に個人情報保護等の問題があることも指摘している¹¹⁾。

一方、平成24年7月～11月に妊産褥婦133名を対象に行った実態調査(回収率66.9%)の結果によると、厚生労働省や地方自治体が積極的に子育て支援事業を実施しているが、その対象者である妊産褥婦の認知の程度は2割程度との報告もある¹²⁾。母親の身近に子育てを手伝ってくれる人はいても、不安やストレスを自由に話し合ったり、困った時気軽に相談できる人がいない現状がある。こうした中でも子育て支援事業に参加した結果、子育てを楽しいものと捉えられた母親には「柔軟さ・寛大さ」と「視野の広がり」が見られ、

9) ネウボラとはフィンランドの「妊娠期からの切れ目ない」ワンストップの子育て支援施設を指し、フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する。

呉市版ネウボラ：子育て世代包括支援センターによる妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援（総合相談、関係団体との連絡調整等）

10) 稲持英樹：地域における途切れのない妊娠・出産・子育て支援事業、名張版ネウボラ事業について、日本新生児成育医学会雑誌，27(3)，558，2015。

11) 稲持英樹：周産期からの地域子育て支援事業と医療の連携について、日本新生児成育医学会雑誌，27(3)，597，2015。

12) 森松万結 他：地域における子育て支援事業の活用に関する調査，母性衛生，54(3)，268，2013。

他の親と友人になれた母親は、「柔軟さ・寛大さ」に有意差をみとめるが見られる傾向がある¹³⁾。

保育所開放に参加している母親と参加していない母親に対する追跡調査の結果は、保育所開放に参加する母親は就園前の第一子を持つ親が多く、意識および行動に関する特徴ある結果として「社会性に関する因子」の改善を報告している。保育所開放の場が、母親の社会性の促進に寄与することを指摘している¹⁴⁾。

こうした子育てを取り巻く環境の変化の中、平成 25 年度に呉市内の未就学児童が属する世帯 3,000 を対象に「子ども・子育て支援法に制定される子ども・子育て支援事業計画の策定の基礎となるニーズ調査¹⁵⁾を実施、回収数 1,815 (回収率 60.5%) を分析した結果は、子育てを夫婦で分かち合っている実感は約 57%、母親からの父親への育児参加への期待は、「休みの日ぐらいいは、育児に参加してほしい」約 51%、「平日はなるべく早く帰宅してほしい」約 45% であった。父親から母親への期待「ひとりで抱え込まないでほしい」約 47%、「他人のアドバイスを素直に聞いてほしい」約 31% など、精神的な面に関わる回答が多かった (n=1,779)。

母親の父親に対する子育て支援への期待度は高くはなかった。一方、父親はそうした母親の状況を心配している。その背景には夫婦双方に置かれた立ち位置での状況への配慮が伺える。

父親への子育て支援事業の実施については、夫婦双方での意識差がその他¹⁶⁾にも報告されている。父親自身は「ビジネススキルアップ講座」の開催を重要視していたが、母親は父親にその講座は必要ないと考えていた。一方、父親は「母親を

サポートする」という意味で大切な存在であると同時に、父親自身も親として周囲から支えられることの重要性を指摘している。地域における子育て支援の視点に男性を含めた働き方の見直しと子育ての社会化の必要性が強調されている。

今日の社会的な背景もあり、母親は子育てに必要な情報を様々な方法で入手している。一方、「知らないサービスが多い」「利用制限が多い」という意見も聞かれる。こうした状況の中では、初産婦のうち、子育て教室を利用した人の育児不安得点は有意に低く、情報源は約 7 割が広報機関紙や口コミであった。インターネットサイトの簡便な利用方法の推進が求められている¹⁷⁾。K 市では市主催の子育て支援事業「子育てふれあい教室」に参加した母親に行った実態調査の結果、子育てに関連したインターネットを利用している母親は約 8 割で、その利用状況は頻度及び時間ともに健全で、メリットやデメリットを理解した上での利用であったことが報告されている¹⁸⁾。専門職者は母親の多くがインターネット上で情報収集や意見交換をしている現状を認識し、積極的に関心を寄せる必要があると指摘している。一方、インターネット情報では解決できない疑問や不安の様相を把握することとともに、専門職者としての情報提供や健康教育のあり方についての検討が急務であるとする。

こうした子育てに関する支援事業内容の認知度はあまり高くはない。横浜市では認知度が 30% を下回る事業として 24 時間型緊急一時保育・障害児保育・市立保育園育児支援事業・幼稚園はまっ子広場であったことを報告している¹⁹⁾。一方、産前産後・育児休暇、児童手当支給、小児医療費

13) 小川佳代 他：地域子育て支援事業の効果に関する研究－母親の親性の発達に影響する要因－，小児保健研究，69(3)，432-437, 2010.

14) 野原真理：母親の育児に関する意識および行動の変化－保育所での地域子育て支援事業への参加をとおして－，小児保健研究，66(2)，290-298, 2007.

15) 呉市が事業計画の策定に向けて平成 25 年 12 月 30 日～平成 26 年 1 月 14 日に実施した子ども・子育て支援に関するニーズ調査

16) 伴 碧 他：過疎指定地域の子育て支援センターにおける父親の利用促進に関わる要因分析，小児保健研究，70(6)，790-795, 2011.

17) 松原紀奈 他：9-11 か月児を養育する母親の子育て支援事業の認知と活用度の実態，母性衛生，57(3)，315, 2016.

18) 井田歩美 他：子育て情報に関する母親のインターネット利用についての実態調査－市町村子育て支援事業に参加した乳児の母親へのアンケート結果より－，母性衛生，53(4)，427-435, 2013.

19) 中山和美 他：母親たちが望む育児支援情報提供のあり方，母性衛生，48(4)，471-478, 2008.

助成、健康診査、母親学級等についての認知度は高かった。

また、近年では子育て支援事業を展開するに当たり大学や地域医療関係者の連携も少しずつはかられてきている²⁰⁾²¹⁾。しかし、その仕組みは組織的に連携が不十分との指摘もある²²⁾。

本学と呉市の今後の子育て支援事業のあり方としても、大学と地域、自治体、医療関連施設等々のネットワークづくりが課題となってくる。

5. 結 語

男性を含めた働き方の見直し、地域における子育て支援、子育ての社会化が言われて久しい。すべての親子を対象に多様な子育て支援事業が全国で実施されるようになってきた²³⁾。一方、子どもを取り巻く環境の変化は著しく、ますます少子化は進行、超高齢化社会・人口減少に対応して、呉市も第4次呉市長期総合計画の総合戦略の中で人づくりを重要視、重点プロジェクトの目標に掲げ

ている。本学が本事業をスタートさせた背景には、次世代育成支援対策推進法が制定され、地方自治体に「次世代育成支援地域行動計画」の策定が義務づけられた²⁴⁾という子育て環境要因が大きく関係している。

本事業を開始した当初は様々なことが一つひとつ始めてということもあり、多くが手さぐり状況でのスタートであった。関係者間で何度も話し合いや調整等々を繰り返し重ねて行うことで、今日の基盤が形作られている。中間評価を経て、受講生の意見や考えを反映、再考を繰り返すことで、より受講生ニーズに叶った事業としていきたい。

子どもにまつわる社会問題の多くは、今日ほとんどが人間関係から発生しているとも言える。本学の子育て支援事業に求められる大きな課題に、人間関係づくりのための仕組みづくりができる能力の獲得支援がある。次の10年に向けて、これまでの本事業を振り返りながら、実際の・実践的分析をさらに加えていく予定である。

20) 笹尾あゆみ 他：大学を拠点とした子育て支援事業（第1報）子育て支援活動プログラムの評価，母性衛生，55(3)，265，2014.

前田尚美 他：大学を拠点とした子育て支援事業（第2報）乳幼児を養育する母親のQOL，母性衛生，55(3)，266，2014.

21) 芥川理津子：地域小児科クリニックから生まれた子育て支援事業の将来性，外来小児科，29(4)，563，2006.

芥川理津子 他：地域小児科から生まれた子育て支援事業，外来小児科，10(1)，19-21，2007.

22) 山崎嘉久 他：個別健診実施自治体における委託医療機関との子育て支援に関する情報連携，日本小児科医学会報（52），109，2016.

23) 厚生労働省が管轄する主な子育て支援事業には、地域子育て支援拠点事業、乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業、ファミリー・サポート・センター事業、放課後児童健全育成事業、乳幼児と中・高校生のふれあい事業等がある。

24) 呉市次世代育成支援行動計画は平成17年3月に策定、平成22年に完成年度を迎えた。

図表 2 呉市育児支援プログラム（平成 20 年度）

平成 20 年度呉大学派遣研修について

1 目 的

本市では、平成 17 年 4 月に「呉市次世代育成支援行動計画」を策定し、地域社会全体での子育て支援に取り組んでいるところである。

しかしながら、子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化する中、幼稚園・保育所（園）に期待される役割が深化・拡大してきている現状である。

幼稚園・保育所（園）職員の資質向上のため、従来の研修とは異なり、専門資料や教材が整った呉大学に職員を派遣することにより、より専門性の高い知識を持った職員を養成する。

2 研修期間

平成 20 年 8 月 1 日（金）から平成 20 年 8 月 12 日（火）

- ・ 第 1 週 8 月 1 日（金）から 8 月 6 日（水）
- ・ 第 2 週 8 月 7 日（木）から 8 月 12 日（火）

3 内 容

別紙のとおり

4 対 象 者

呉市内保育所保育士（公立保育所・私立保育所）

呉市内幼稚園教員

5 そ の 他

- （1）自家用車での通学は可
- （2）弁当及び飲み物は各自が用意
- （3）実習科目時は、動きやすい服装及びシューズ
（8／5・8／6 小児看護学技術・小児救命救急）
- （4）演習コラージュ（8／9）では、のり・はさみ持参
- （5）研修を終えて（感想・意見を提出）

図表 3 呉市育児支援プログラム（平成 25 年度）

平成20年度 呉市子育て支援プログラム

研修場所：呉大学 阿賀キャンパス
呉市阿賀南2-10-3

連絡先：0823-74-6000

第1週

	8月1日(金)	8月2日(土)	8月4日(月)	8月5日(火)	8月6日(水)
9:20~ 10:50 1	開講式 オリエンテーション 301講義室	発達心理学 【若 林】 301講義室	演 習 エンカウンター 東中須・岩本・大原 金子・佐々木・長沼 原・山内・若林 大講義室 2階実習室	小児看護学概論 【長 沼】 301講義室 2階実習室	小児救命救急 救命演習 【岩 本】 2階実習室
11:00~ 12:30 2	発達心理学 【若 林】 301講義室	発達心理学 【若 林】 301講義室		小児看護学概論 【長 沼】 301講義室 2階実習室	
13:20~ 14:50 3	人間関係論 【東中須】 301講義室	人間関係論 【東中須】 301講義室		小児看護技術 【長 沼】 301講義室 2階実習室	小児看護技術 【長沼・大原・原】 2階実習室
15:00~ 16:30 4	人間関係論 【東中須】 301講義室	人間関係論 【東中須】 301講義室		母乳育児支援 【入 江】 301講義室 2階実習室	

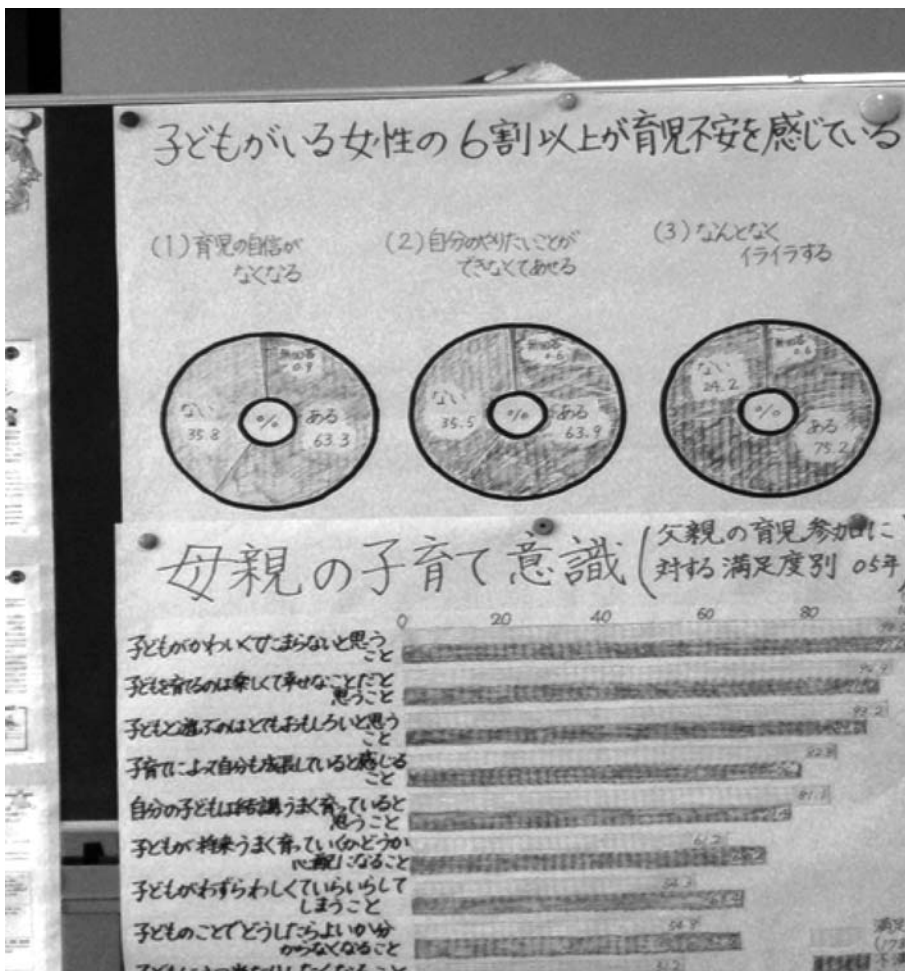
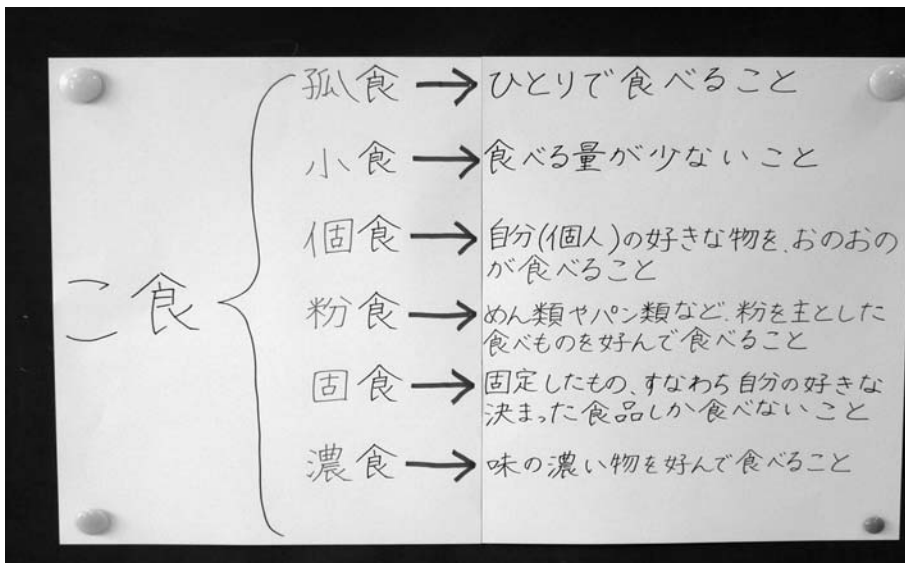
第2週

	8月7日(木)	8月8日(金)	8月9日(土)	8月11日(月)	8月12日(火)
9:20~ 10:50 1	家族社会学 【礒 田】 301講義室	子育て支援と行政 (少子化対策) 【呉 市】 301講義室	演 習 コラージュ 佐々木・岩本・大原 金子・長沼・原 東中須・山内・若林 2階実習室	演 習 課題学習	全体発表会 佐々木・岩本・大原 入江・金子・長沼 原・東中須・若林 2階実習室
11:00~ 12:30 2	家族社会学 【礒 田】 301講義室	子育て支援と行政 (母子福祉行政) 【呉 市】 301講義室		山内・岩本・大原 金子・佐々木・長沼 原・東中須・若林	
13:20~ 14:50 3	家族看護論 【佐々木】 301講義室	子育て支援と行政 (子どもの人権) 【呉 市】 301講義室		図書館 2階実習室	修了証書授与 第2会議室 2階実習室
15:00~ 16:30 4	家族看護論 【佐々木】 301講義室	食 育 【山 下】 301講義室			まとめ・交流会 佐々木・岩本・大原 入江・金子・長沼 原・東中須・若林 第2会議室

図表 4 子育て支援研修会課題学習発表会風景



図表 4 子育て支援研修会課題学習発表会風景



図表 4 子育て支援研修会課題学習発表会風景



**呉市・広島文化学園大学看護学部 子育て支援研修会
課題学習スケジュール(8/5)**

いよいよ本研修会の集大成の日になりました。

明日(8/6)の全体発表会の準備(発表用資料の作成等)まで、各グループで頑張ってください。

時 限	内 容	場 所
1 コマ 9:20～10:50	課題学習のオリエンテーション グループ分け 課題の明確化	2階実習室 図書館
2 コマ 11:00～12:30	課題の探究・分析(積極的に図書館を活用してください)	2階実習室 図書館
3 コマ 13:20～14:50	発表会の準備(各グループで発表 会用の資料作成および発表会当日の役割決め)	2階実習室 図書館
4 コマ 15:00～16:30	発表会の準備	2階実習室 図書館

※ 全体発表会(8/6)の進行(各グループの発表時間は15分、質疑応答は10分を予定)

図表 5 呉市育児支援プログラム（平成 25 年度）

平成 2 5 年度 呉市子育て支援研修会プログラム

研修場所：広島文化学園大学 阿賀キャンパス

呉市阿賀南 2 - 1 0 - 3

連絡先：0 8 2 3 - 7 4 - 6 0 0 0

第 1 週

	7 月 3 1 日 (水)	8 月 1 日 (木)	8 月 2 日 (金)	8 月 3 日 (土)	8 月 5 日 (月)	8 月 6 日 (火)
9:20~ 10:50 1	開講式 【学長・副学長 他】 オリエンテーション 202講義室	演 習	小児救命救急 救命演習 【岩本】 【大坪】		演 習	全体発表会 【本研修会参加教員】 2 階実習室
11:00~ 12:30 2	見えていますか 子どもの性が 【沢 田】 202講義室	コラージュ 【加藤・佐藤・村木】 2 階実習室	2 階実習室	ワークショップ 音楽とアート ~障がい児と向き合う ために~ 【小 笠 原】 【狩 谷】 2 階実習室	課題学習 【 山 内 】 図書館 2 階実習室	
13:20~ 14:50 3	家族看護論 【佐々木】 202講義室		子育て支援 発達支援 【 成 】 202講義室			修了証書授与 まとめ・交流会 【学長・副学長 他】 【呉市子育て施設課】 第 2 会議室
15:00~ 16:30 4	発達心理学 【若 林】 202講義室		子育て支援と行政 【呉 市】 202講義室			

図表 6 潜在保育士就職支援セミナー（平成 26 年度）



平成 26 年度 潜在保育士就職支援セミナー



- 【目的】 保育所就職に必要な知識・技術等に関する研修を実施することにより、保育士の就職を支援する。
- 【内容】 ・ 講義（発達心理学・人間関係論・小児保健等）
・ 保育指針関係・遊びの技術
・ 就職に関する情報提供・保育所見学 など
- 【主催】 呉市・呉市保育連盟
- 【対象】 保育士の資格を持っている方
（保育所への再就職を希望している方や、保育士としての勤務経験のない方など）
- 【会場】 広島文化学園大学 阿賀キャンパス（呉市阿賀南2-10-3）
※別紙 交通アクセス・地図等参考にしてください。駐車場の利用ができます。
- 【託児】 事前に申し込みをしてください。
※お子さんに必要な物を持参してください。

【日程】	11月25日（火）	12月1日（月）	12月9日（火）
9:20 ~ 10:10 1	オリエンテーション 保育指針関係 【子育て施設課】	講義 3 発達心理学 【若林准教授】	希望者 10:00 ~ 11:00 保育所見学 【阿賀保育園】 【子育て施設課】
10:20 ~ 11:10 2	講義 1 人間関係論 【八島准教授】	講義 4 発達心理学 【若林准教授】	
11:20 ~ 12:10 3	講義 2 小児保健 【進藤准教授】	遊びの技術 【子育て施設課】 就職に関する情報提供	ディスカッション 【子育て施設課】

【集合時間および集合場所】

9 時 10 分までに文化学園大学 302 講義室にお越しください。

（玄関から講義室までの案内表示に従ってお進みください。）

【服装】 12 月 1 日は、実技がありますので動きやすい服装・靴で参加してください。

※ 保育所見学の希望の確認は、11 月 25 日にさせていただきます。

【問い合わせ】 呉市子育て施設課 TEL(0823)25-3144 担当 兼田・大窪